

6月24日～25日、福井県鯖江市における「データシティ鯖江の取り組み」、富山県小矢部市における「子ども医療費窓口無料化施策」について視察しました。

【データシティ鯖江の取り組み】

福井県鯖江市は「幸福度の高い交流都市」を目指し、「データシティ鯖江」としてオープンデータ戦略に取り組んでいます。平成22年に合併問題を検討する中で、市民の力を借りるために「鯖江市民主役条例」を制定しました。そこで、地域づくりのために、積極的な情報公開による市民間の情報共有が提案され、その年の12月、「データシティ鯖江」の提唱により、この取り組みがスタートしました。

行政の保有データをオープン化するため、CC(クリエイティブ・コモンズ)を用いたライセンス許諾を行い、平成24年には、市内の避難場所、AED設置場所、トイレ等の位置情報を用いたマップなど、市がテスト的に公開した24種類のデータを活用したアプリが、すでに40種類もアップされています。これら市によってオープン化されたデータは、情報処理量が無限大に近いので、必要に応じて情報の加工が可能なXML、RDF形式で提供されています。データの保守、メンテナンス、職員のデータ公開に対する恐怖心を無くす施策が課題で、今後は時間、コストをかけずに身近なデータを活用していきながら「ITのまち鯖江」を目指していくとしています。

【子ども医療費窓口無料化施策について】

富山県小矢部市では、近隣市町村への20～30歳までの若い子育て世代の転出が多く、定住促進制度、子育て支援に積極的に取り組み、その一環として子ども医療費助成制度を実施しています。

平成23年4月より中学3年生までの医療費(通院、入院)を所得制限を設けず、全額助成を実施。医療機関窓口で医療費の自己負担がない(窓口無料)の現物給付制と、自己負担後に申請による償還払い制の2種類があり、ほとんどの市民が現物給付を活用しています。制度導入以降、若い世代の転出者が減少しており、子ども医療費の窓口無料化による人口政策の効果が出たと思われます。

今後の課題としては、市民にもっと現物給付制と償還払い制を理解してもらうことで、小矢部市で暮らす魅力を高めていきたいとしています。(文責 三井新成)



富士見パノラマスキー場の類似型スキー場における成功事例 —— 議員勉強会開催 ——

6月13日、島根県の瑞穂ハイランドを成功に導いた瑞穂リゾート株式会社の石井寿夫社長を招いて、議員勉強会を開催しました。瑞穂ハイランドは、規模、標高差、高速ICからの距離など、富士見パノラマスキー場との類似点が多いスキー場です。

成功の要素として、スノーボーダー取り込みのため遊園地的な楽しさを取り入れたほか、人気ブランド最新モデルから厳選したレディース用レンタルウェアやアメニティーの充実により、女性客の満足

度向上にも成功しました。また、ファミリー客のために子ども用施設を充実、ヘビーユーザーの満足度アップのために年間プレミアム会員チケットも導入しています。どのプロジェクトもあまりコストをかけずに効果を上げており、イベントの開催、料理教室など地域の連携にも努めているなど、大変参考になりました。